

第1 なぜあかしなのか

【暗唱聖句】

「これは、わたしたちの救い主である神の御前に良いことであり、喜ばれることです。神は、すべての人々が救われて真理を知るようになることを望んでおられます」テモテへの手紙一 2章3、4節

【日曜日・救いの機会を提供する】

確かに、美しい自然の中に神様の愛が輝いています。広大な宇宙は神様の無限の力を感じさせてくれます。しかし、人は自然や大宇宙の中に、神秘的なものを感じたとしても、イエス様に目が開かれるのは簡単なことではありません。だから、イエス様はこう言われたのです。

「人の子は、失われたものを捜して救うために来たのである」(ルカ 19章10節)

そして、この主の御心を使命として、教会やクリスチャンたちは引き継いでいます。ヤコブ 5:19, 20 では、「わたしの兄弟たち、あなたがたの中に真理から迷い出た者がいて、だれかがその人を真理へ連れ戻すならば…罪人の魂を死から救い出(す)…ことになる」と書いてあり、「失われたものを捜して救う」とは、「罪人の魂を死から救い出すこと」なのだと教えています。

心から悔い改めて主の名を呼び求めるなら、信仰による恵みにより誰でも救われます。この恵みとは、一人一人の罪を清め、義とするものです。信仰がなければ誰も主の名を呼び求めませんし、私たちが福音を語りそれを聞く機会がなければ信じることはできません。わたしたちは神様の救済計画のつなぎ役なのです。

【月曜日・イエスを喜ばせる】

わたしたちはイエス様を喜ばせる生き方をするには、どのようにしたら良いのでしょうか。私たちが良い人になるのでしょうか。それとも私たちが神様の御心を知り、それを生きるべきでしょうか。

「お前の主なる神はお前のただ中におられ、勇士であって勝利を与えられる。主はお前のゆえに喜び楽しみ、愛によってお前を新たにし、お前のゆえに喜びの歌をもって楽しまれる」ゼファニヤ書 3:17

ゼファニヤ書 3:17 を読むと、子どもの存在が親の喜びであると同様に、私たちの存在そのものが神様の喜びであることがわかります。その上でより一層イエス様を喜ばせる方法があります。聖書の中で、イエス様がとても喜んでいて姿が描かれている場面があります。それは失われた子羊が見つかったときです。「見つけたら、喜んでその羊を担いで、家に帰り、友達や近所の人々を呼び集めて、『見失った羊を見つけたので、一緒に喜んでください』と言うであろう」(ルカ 15:5, 6) と書かれてあります。友人や近所の人とは別に関係ないことなのだけど、一緒に喜んでくれと、その喜びが抑えきれない様子がよく伝わってきます。さらに驚くべきは、「このように、悔い改める一人の罪人については、悔い改める必要のない九十九人の正しい人についてよりも大きな喜びが天にある」(ルカ 15:7) と、イエス様だけでなく全天に喜びが巻き起こると書かれてあることです。イエス様にとってたった一人でも魂が救われるのは、これほど大きな喜びなのです。

このことから、私たちがイエス様を喜ばせる最も良い方法がわかってくるのです。それは失われた魂を捜して救い出すことです。わたしたちが伝道する理由は、イエス様が喜んでくださるからなのです。イエス様の喜びは私たちの喜びでもあるのです。天使たちが喜び歌うように、私たちも喜び歌うのです。これはイエス様の心と私たちの心が一つとなっている証拠でもあります。

【火曜日・与えることで成長する】

死海は海拔マイナス 430 メートルという、世界で最も低い位置のところにあります。死海を含むヨルダン溪谷は、かつては海だったと考えられています。死海の水はどこにも流れていくことができず、流入する水や雨の水を受けただけです。年間降水量はわずか 50mm から 100mm しかなく、水分の供給を受けてもそれと同くらい水は蒸発してしまいます。それに加えて、周囲の土壌に元来含まれている塩分が雨によって流され、死海の中で凝縮

する形となって塩分濃度が高くなる一方です。そのため魚はほとんど生きることができず、死んだ海と呼ばれるようになってしまったのです。同じように私達も神様からのたくさんの恵み受けるだけで、それを他者に与えることをしないと、靈的に生き生きとすることができなくなってしまうかもしれません。ただ、頑張って無理して他者に与えるというではありません。イエス様は、「渴いている人はだれでも、わたしのところに来て飲みなさい。わたしを信じる者は、聖書に書いてあるとおり、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」(ヨハネ 7:38, 39) と言われました。もし、他者に与えることができないで悩んでいるなら、実はまずは神様からもっと靈的恵みを受ける必要があるのかもしれない。

【水曜日・キリストの命令に従う】

「主は…一人も滅びないで皆が悔い改めるようにと、あなたがたのために忍耐しておられるのです」(第二ペテロ 3:9) とあるように、神様の御心は一人も滅びないことです。皆が悔い改めるのを待っておられます。神様は、人間が滅びることを望んでおられる。だから、厳しい裁きがあるのだと思っている人もいるかもしれませんが、これは正しくありません。一人も滅びることを望んではおられません。そのため神様は、世の光として福音を述べ伝える者を定めておられます。

「わたしはあなたを僕としてヤコブの諸部族を立ち上がらせ、イスラエルの残りの者を連れ帰らせる。だがそれにもまして、わたしはあなたを国々の光とし、わたしの救いを地の果てまでもたらす者とする」イザヤ 49:6

「主はわたしたちにこう命じておられるからです。『わたしは、あなたを異邦人の光と定めた、あなたが、地の果てにまでも救いをもたらすために。』」使徒言行録 13:47

【木曜日・愛による動機づけ】

「なぜなら、キリストの愛がわたしたちを駆り立てているからです」第二コリント 5:14

パウロの伝道の動機はキリストの愛でした。キリストの愛が自分を駆り立てると言っています。「駆り立てる」という言葉は、「強いる、迫る、支配する」という意味のある言葉です。自分には伝道は無理だと感じている人がいるかもしれません。しかし、それは裏返せば駆り立てられるキリストの愛が欠如していることを現わしているのです。エレン・G・ホワイトは、「真の愛が心に宿らなければならない。純粋なクリスチャンは主に対する深い愛に基づいて行動する。キリストに対する愛の根源から、兄弟に対する無私の関心が芽生える」(希望の光 P812) と言っています。キリストが自分のために何をしてくださったのか、いつも御言葉から確認し、その愛の中に生きることが大切です。パウロは続けてこう言いました。

「わたしたちはこう考えます。すなわち、一人の方がすべての人のために死んでくださった以上、すべての人も死んだこととなります。その一人の方はすべての人のために死んでくださった。その目的は、生きている人たちが、もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方のために生きることなのです」コリント二 5:14, 15

キリストが私達のために死んでくださったのは、単に私達の罪を赦すためだけでなく、わたしたちも自分自身に死に、「もはや自分自身のために生きるのではなく、自分たちのために死んで復活してくださった方のために生きる」ためなのです。ここに至った時に、伝道は自然なこととなるでしょう。